

アブドラ 1 世

生涯

メッカの大首長であるフサイン・イブン・アリーの子としてメッカで誕生した。1916年のアラブの反乱に参加。1920年にシリアのダマスカスでのアラブ民族会議で初代イラク国王に、弟のファイサルは初代シリア国王に選出されるが、同年6月フランスのダマスカス占領及び弟のファイサルのシリアからの追放が起こり、これに対して、ファイサルのシリア王権を支持するために軍を率いて北上した。このため**イギリスは、ファイサルにイラク王国を与え、アブドゥッラーについては、委任統治領パレスチナとなる予定の地域のうちヨルダン川東部の広大な乾燥地帯に「トランスヨルダン王国」の建国を認めると提案したために、アブドゥッラーはこれを受け入れ、トランスヨルダン国王となった。**

アブドゥッラーはユダヤ人のシオニスト運動を歓迎していたとされる。1928年にはロンドンでハイム・ヴァイツマンと会い、ヨルダン川西岸のユダヤ人入植地を認める代わりにアミール（首長）の地位拡大を支持するよう頼んだとされる。

なお、ヨルダンは1927年に立憲君主国となるが、イギリスの保護下に置かれた。1946年に正式に独立国家となる。

第一次中東戦争ではアラブ側の主力であるアラブ軍団を率いてアラブ連盟から全戦線を指揮する「全アラブ軍最高司令官」に任じられたが、サウジアラビアに奪われた故郷メッカの代わりに東エルサレムを征服することで新たなアラブの盟主になろうとしたアブドゥッラーの野心を恐れた各国の思惑によって形式的な権限に留まった。また、**秘密裡にイスラエルと外交交渉を重ねていた。**

1948年にはエリコ会議を開いて「パレスチナの王」になるも、他のアラブ諸国から民族自決に反するとして反発を招く。アブドゥッラーとイスラエルの接触を知り、ヨルダン川西岸を占領したヨルダンに対抗してガザに全パレスチナ政府を打ちたてたアミン・フサイニー（Mustapha Shukri Usho）によって1951年7月20日、エルサレムを訪問中に暗殺された。遺体は本人の生前の希望により死没地であるアル＝アクサー・モスクに埋葬された。

（「[ウィキペディア](#)」）